

1 直近の活動

6月1日(土) JAXA見学会

くくご家族連れも参加していただき久しぶりの「見学会」ができました。一つだけ残念だったのは、自己紹介をするマイクがバスになかったことです。和鐵的には、NASAボールを買うことができたので大満足。

6月2日(日) 幹事会 (ZOOM)

6月13日(木) 総会 (名誉会員2名、会長表彰2名爆誕)

くく数名の金属部会の方が総会に参加していただき感謝します。

6月16日(日) 企業内技術士勉強会「櫻井君講義」 (ZOOM)

くくなかなか面白かった。「企業理念」についての研究は役に立つ。

6月23日(日) 定例部会・役員会、お祝い会

くく酒本くんの話術には多分全員、聞き惚れてしまった。難しい技術を難しく語るのとは簡単だが、簡単に語るのとは簡単ではない。和鐵もしっかり勉強させていただきました。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

7月7日幹事会

7月21日 企業内技術士勉強会 (第17回目) とBOR議論、技術者倫理講義

7月28日定例部会 (近畿本部) くく部会長は会場参加します

3 部会四方山

▶金属部会は、昔から「総会」がなく、「役員会」が決議機関になっている。何軒か出席した他部会の総会は、幹事会や定例部会で毎月情報交換している理事会報告、委員会報告、部会長報告を行ったうえで「決議項目」を議論していた。▶金属部会の役員会は、執行役と幹事と顧問で構成されている。執行役は理事、部会長、副部会長4人の合計6名で構成され、部会運営を担当している。幹事は、委員会の委員になるか、部会活性化、地域活性化を担当している。現在は22名が幹事として活動している。顧問は、名誉会員、理事や部会長経験者の中で幹事会から顧問委嘱をされたメンバで構成され、部会活動が健全に運営されているかをしっかり見守ってくれている。6月と12月の「役員会」に加え3月、9月の顧問会でご意見を拝聴して部会運営に反映している。▶金属部会では、これまで様々な「従来にない活動」にチャレンジしてきた。古くは、毎年1月に開催していた「新年会」には日本技術士会の幹部の皆さまをお迎えして、プロオペラ歌手と伴奏者付きで新春を祝っていた。大先輩のネットワークでカミオカンデやBファクトリーやSPring-8見学なども実現して来た。2008年の若手メンバによるYES-Metals!の立ち上げ、そのメンバーによるラジオ番組の創出など前例なき活動にもチャレンジしてきた。2018年には2年間かけて60周年記念誌作りあげ、部会初のデータで残す部会活動にもチャレンジしてきた。コロナ禍の中では、活動環境の激変を活用して、年間数十回、1時間講義数にして40件に届く

CPD講演活動にチャレンジし、毎年の活動の軌道に乗せた。CPD実績の登録では100人キャンペーンにチャレンジし、登録実績97名、CPD認定34名まで漕ぎ着けた。2023年は諸先輩が作り上げた60周年記念誌を引き継ぎ、新たに65周年記念誌を作り上げた。その工期は3ヶ月に限定するという過酷なチャレンジであったが、部会員の全面協力、技術士会事務局の協力、役員会の頑張りで見事に吉武記念講演会に間に合わせた。▶金属部会の運営は常に新たなイベントへのチャレンジに満ちてきた。忘れてはならないのは、それぞれのチャレンジは一時的なその場限りの活動ではなく、現在もまだ継続しているという事実である。チャレンジが部会活動を進めていると言っても過言ではないだろう。▶金属部会は、そのチャレンジ精神を受け継ぎ、7月より次なるチャレンジを開始する。名付けて「KIPチャレンジ」である。KIPとは金属、印象的な、プレゼンの略である。内容は、10分間のプレゼンテーションで、情報を的確に聞き手に伝えるコンテンツである。詳しくは、YOUTUBEで説明しているのでぜひ聞いてみてほしい。10分間チャレンジと言いながら、実は14分間かかっている。意地でも10分にしかかったので1.4倍速にして掲載する。このように和鐵のスキルもまだまだ未熟なので、ぜひ皆さまと一緒にスキルを磨いていきたい。

ここからYOUTUBEでKIPチャレンジの趣意説明を見ることができます。

<https://youtu.be/-MIG8kUypGw>

5 和鐵管見34

▶とうとう和鐵にも人に自慢できるスキルが身についたような気がする。これにはちょっと自信を持っている。それは、コーヒーの淹れ方だ。▶和鐵はコーヒー中毒だ。いつもカフェインを摂取していなければすぐ寝落ちしてしまうので、日中はカフェインで意識を持たせている様相だ。本当のことなら、コーヒーからの摂取でなく、直接カフェインを血液投与したいくらいだが、そこまで行けば麻薬と同じになるので節操を保ち、コーヒーによる経口投与を続けている。▶これまでの愛用は、でっかい瓶が3本で680円のコストコのインスタントコーヒーだった。しかしこの半年の海老名暮らしでは車がないのでコストコに行けない。いつの頃からか昔から淹れていたイタリア式のエスプレッソとAERO PRESSに戻ってしまっている。▶イタリア式のエスプレッソを入れるには、コーヒー豆を真ん中のお皿に入れて、下のパーツに入れた水を高圧蒸気に変えて上の溜まりにシュッシュと出てくる抽出液を採取する。これはまあ、誰が淹れても同じ濃いエスプレッソができる。この味は、まだ会社5年目の時にイタリアに技術指導に行っていた時に覚えてしまい病みつきになった。でも結構苦い。この方法の問題点は、ガスであっためるのはいいのだが、和鐵の持っているものはアルミ製なので、海老名の単身赴任のキッチンのIHヒーターでは温まらない。仕方ないので、最近でた同じ形なのだが下のパーツだけが鉄でできた道具を購入した。でも意気揚々とIHにかけても設置面積の問題で作り付けのIHではエラーが出て温まらない。方法は二つ、コーヒー専用のIHを買うかIHを無理やり動かすかだ。後者を採用した。小型のフライパンをIHに置いてその上にエスプレッソマシンを置くと上手く加熱できるようになった。これでめちゃくちゃ濃いエスプレッソの摂取ができる

ようになった。▶でも、毎回エスプレッソでは飽きてしまうし、苦すぎて味がわからない。こういう時にはAERO PRESSの出番だ。これは円筒状の中つつの下に丸いフィルターをセットし、そこにコーヒー豆を入れる。中つつにお湯を注いだあと、上から先端にゴムのついた加圧筒をはめて、一気にコーヒーを加圧抽出する優れたものだ。コロナ前の海外技術指導で海外滞在には欠かせないアイテムだった。▶このAERO PRESSの抽出は、単純だが奥が深い。AERO PRESSの淹れ方の世界選手権もある。色々あるようだ。和鐵の淹れ方は、まずコーヒー豆を10グラム測り、手回し式のグラインダーで何十回もハンドルを回し、粉にする。早くやろうとグラインダーの臼のセット間隔を広げてやると、こなの大きさがばらつき、のめたものにならなかった。エスプレッソっぽいコーヒーにするには粉を均質の微粉にする必要がある。▶次は、セットの仕方だ。渋みのないコーヒー、まるやかなコーヒーにするには、フィルターを2枚使う。粉を入れたあと、静かに筒を回して、粉の厚みを均等にする。お湯は300CC使う。まず筒の粉を均等に湿らせる。フィルター1枚の場合はこの時点で液が垂れる。2枚だと粉が蒸れるだけで下に垂れない。この状態で1分間おく。ついでお湯を弧を描くように注ぎ込み、大きな平たい専用ヘラでつつの中身を10回攪拌させる。素早く上のつつをセットする。こうすることで、液たれを最小限に抑え、上のつつを押し込まない限り、粉とお湯は渾然一体となってコーヒーの抽出が行われる。10分間待つ。上の筒を抜き、再びヘラで10回攪拌する。つつの中は少し抵抗のある固液共存層になっている。上つつをセットし、ゆっくりと、そう、1秒間に数ミリ程度で押し込む。圧縮空気が押し出されたら終わりだ。2つのつつとフィルターの間に挟まれたコーヒー豆は役割をおえ、コーヒーケーキ（粉末固体）に圧縮される。そして下部のフィルター抑えの外し、上つつを押し込むと圧縮ケーキが排出される...▶こうして淹れたコーヒーが絶品なのだ。まるやかで、渋みがなく、それでいて風味と味が素晴らしいコーヒー1杯が出来上がる。豆のコストと、途中の労力と待ち時間を入れても十分、コーヒー専門店で飲むコーヒーに引けを取らない。まあ、こんな手間をかけずにコーヒー専門に行けばしまいなんだが。スタバやタリーズのような、商業化されたコーヒーではなく、毎回味が変わってしまい、時折、素晴らしいコーヒーが飲める。これが自称コーヒーマスターの和鐵の真の思いである。どこが自慢できるところか？この文章は、自室の朝の4時過ぎに書いているんだが、愛用のコーヒーカップを片手に今朝のコーヒーを時折啜っている。いいだろう。至極の一杯を飲んでいるんだぞ。これが自慢できるポイントだ。

金属部会長便り(2024年8月号)2024年8月3日発行(第37号)

田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

7月7日幹事会<<新候補も参加

7月21日 企業内技術士勉強会（第17回目）とBOR議論

7月28日定例部会（近畿本部）

<<<リアル参加いただいた皆さんに感謝！来年の大阪万博に技術士会が関わっていると
は知らなかった。

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

8月4日(日) 幹事会、開催はしますが、資料は間に合わないかも・・・

8月8日(木) KIPチャレンジ勉強会説明会

8月11日(日) 化学・繊維・資源&金属合同講演会「サステナブル社会」<<部会長は
ZOOM参加

8月18日(日) 企業内技術士勉強会（第18回目）とBOR議論、技術者倫理講義

8月21日(水) 部会長会議

8月25日(日) 定例部会・機械振興会館

9月以降のスケジュール

9月11日(日)金属部会CPD技術セミナー「最新技術3」

10月4日（金）北海道全国大会・部会見学会「北海道科学大学」

10月5日（土）北海道全国大会総会、懇親会

11月24日（日）金属部会CPD技術セミナー「歴史金属学2」

12月8日（日）金属部会CPD技術セミナー「KIPチャレンジ予選大会」

3 部会四方山

▶部会活動は勝手にはできない。どのような活動をするのかイメージし、企画し、それを実現可能なレベルまでブレークダウンし、それを行う仲間を集める。そうして初めて実行可能になる。▶考えてみれば、仕事も部会活動も、プライベートな活動も皆同じプロセスを踏んでいる。問題なのはイメージし、のところだ。何かをイメージするということは、何かを行いたいという欲求があって行える。何も欲求がないところに、イメージはできない。この欲求とは、自分の中の足りないところである。足りないところを探せば、欲求は簡単に生まれる。例えば、これを読んで知る皆さん、自分のお住まいを見回してみてください。さて、何が足りませんか？昔の和鐵の自宅の作業部屋は、クーラーがない、テレビもない、照明もない、本棚も十分でない、机も子供が小学生時代に使っていたものしかない。こんな状態だ。この状態を意識すると、クーラーが欲しい、壁掛けテレビが欲しい、ELのAI天井灯が欲しい、カッコいい大人の机が欲しいという欲求が高まり、それを手に入れようという行動が生まれる（今のところ、コロナでテレワークになった時に清水の舞

台から飛び降りる覚悟で買った格安クーラーだけ実現しましたが) ▶でも、クーラーも欲しなければ、購入できませんでした。足りないものを想像するということは、行動の原点ではなかるうか。では、今の部会に足りないものはなんだろう。こう改めて聞かれると批判したりしているように聞こえるかもしれないが、全然そうではない。組織にしても個人にしても自室にしても完成型などない。常に足りないものを意識し、欲求を作り出す。こうしている限り、停滞はないだろう。時が止まったような部屋はどうだろう。時が止まった組織はどうだろう。そこで生きてはいける。しかし、変化は腐っていくだけだ。そういう部屋で暮らすのを好む人もいるかもしれない。しかし、淀んだ組織や個人の行動、部屋からは腐臭がしてこないだろうか。和鐵は腐臭よりも、汗の匂いがする生きている感覚のする部屋、組織、そして個人が好きだ。

5 和鐵管見35

▶ひょんなことからちょっと大変なことになってしまった。始まりは職場の仕事用の携帯にかかってきた一本の電話からだった。「こちらTBSの世界遺産のプロデューサをしている++というものです。田中先生のお電話でよろしいか?」「はあ?」「今、お時間ありますか?」「もうすぐ打ち合わせがあるので、手短にお願いします」「実は、この秋放送する世界遺産の特別編の監修をお引き受けくださいますか?」「はあ?私ですか?何かのお間違いでは」「いえ実は今年に入りスペシャル企画でこれまでのものをまとめて1本にして番組にする企画が始まっています、その中の一本を先生にと考えているんです」「あ、ひょっとして最近やっていた『世界を変えた植物』のあれですか?」「そうです。ご存知で?」「まあ好きで時々見えています。そういえば特別企画とか表題に出ていましたね」「そうなんです。その第二弾を秋に放映するのですが、タイトルが『世界を変えた鉄』なんです」「あ、そうなんですか?」「で、書店で先生の御本『世界史を変えた金属』を発見し読み始めたら、この先生だっと思い、技術士会に連絡して連絡先を教えてもらったんです」「まあ、先生ではありませんが、そういうご縁なら御協力しますよ」「それなら、これからお会いできますか?」「今日はこれから設備設計打ち合わせなんで無理ですし、金曜なら空いてますよ。土曜から向こう1週間大阪に行っているんで、ここがワンチャンスです」▶すぐにメールが来て新宿の思い出横丁のレトロな茶店で打ち合わせすることになった。和鐵が到着すると、中年のごっついおじさんが待っていた。「こんにちは」「こんにちは、先生」「先生はやめてくださいよ。和鐵でいいです。++さんって、ひょっとしたら『逃げ恥』とか吉田類の『酒場放浪記』を作った人?」「え?よくご存知で」「番組紹介の中でプロデューサの自己紹介がHPに乗っていて、出没先の記載を見たら絶対『酒場放浪記』だってわかりますよ」「まあ、吉田さんと飲み歩いただけで作った番組でしたが。知ってくれたんですね」「結構好きで昔から時々見てました」▶和鐵は、高校の同窓会の関係でよく赤坂にあるTBSで打ち合わせをしていた時期があった。TBSの会長が、高校の東京同窓会の会長で、TBSの一室で同窓会の幹事会を開いてそのまま局の飲み屋で懇親会をしていた。ある時など、30分後に本番が始まる筑紫哲也のニュース930にスタジオに押しかけ、和鐵がまんなに座り、番組の真似事をして遊んでいたら、局の人が「そろそろ本番なんで空けていただけませんか」と止めに来た。哲也になりきっていた和

鐵は、あの口調で……。まあ、そんな局なので協力してもいいかなと思った。▶内容を説明してもらおうと、番組のアーカイブの中から写真と表題が印刷してある企画書を渡された。「こちらで「鉄」をテーマに3つくらいテーマを絞って映像を編集してお渡しするので、その内容についてご意見やチェックをして欲しいんです」「ナレーションもですか」「ナレーションも字幕もです」「それって、どこかスタジオでやるんですか?」「まさか、ファイルをお送りするのでそのチェックバックでいいんです」「ナレーターは杏ですか鈴木亮平ですか」「まだこれから詰めている段階です」「杏さんかいいなあ」「まあ、スケジュール調整次第ですね」「で、いつ頃、その話に来るんです」「えっと、8月中旬にコンテンツをきめ、月末に監修をしていただき、9月半ばに放映と考えていますが、よろしいか。8月の末って海外にいらっしゃることってないですよ」「大丈夫です。会社で工事や実験があるので、日本にいます。年末は半月くらい海外に行きますが」「じゃあ大丈夫だ。お引き受けくださいますか」「オッケーです」▶実際は、半分くらい和鐵が話していた。向こうが聞き上手で、またしっかり本を読み込んでいて、いろんな疑問に答える格好で和鐵が話をした。錬金術や三笠や地球のでき方や鉄や銅のとれ方なんか結構な量の話をしてしまった。▶まあ、向こうはどんな誤解をしているのか知らないが、和鐵は来るもの拒まずの方針なので、誤解を承知で引き受ける。映像コンテンツは、なんか高そうな機材で空撮したものがわんさかあるので、和鐵の手書きポンチ絵と大違いだ。語り手も、和鐵の講義のボソボソ声に比べ物にならない。放っておいてもいいものができそう。9月か10月に日曜6時からの世界遺産を見てもらえれば、和鐵監修の映像が流れる。まあ、和鐵のポンチ絵を使いませんかという提案は却下されたが、それはそれで冷静な判断だ。この秋に出版する「ろうそくの科学の向こう側、ヤングファラデーの冒険と奇跡の木箱」もしっかり売り込んだので、出版後にテレビ局とのコラボも考えたいと思っている。妄想? いいじゃないですか、監修までは事実で、これも昨年『世界史を変えた金属』を出版しなければ起こらなかった。世の中、何が起こるかわからないです。8月のお盆休み中の大工事を指揮した後は、監修に取り掛かろう。その前に出版原稿も3つも仕上げなければならぬし、講義の映像どりが6つもあるので、体力を使い果たすかも。会社の新型炉も年末に向けて作り上げるのでちょっといろいろありすぎる。まあ、体が動く間はこんな感じでアップアップしているのが和鐵なのかもしれない。あ、技術士会の仕事もちゃんとやりますよ。

金属部会長便り(2024年9月号)2024年9月1日発行(第38号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第38号

1 直近の活動

諸般の都合で、KIPチャレンジは中止します。

8月4日(日) 幹事会

8月11日(日) 化学・繊維・資源&金属合同講演会「サステナブル社会」<<部会長はZOOM参加

100名参加。101名申し込みに対して出席率過去最高。

8月18日(日) 企業内技術士勉強会(第18回目)とBOR議論、技術者倫理講義<<<加藤くんの講演が素敵

8月21日(水) 部会長会議<<<いろいろ言った

8月25日(日) 定例部会・機械振興会館、幹事暑気払い<<<講演者2名に拍手!リアル8名参加で、暑気払いは良かったです

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

9月1日(日) 幹事会

9月8日(日)金属部会CPD技術セミナー「最新技術3」

9月18日-19日金属学会(大阪)<<<ここで直談判

9月22日(日) 企業内技術士勉強会(第19回目)とBOR議論、技術者倫理講義

9月23日(月) 顧問会

9月29日(日) 定例部会・千葉県支部

10月以降行事

10月4日(金) 北海道全国大会・部会見学会「北海道科学大学」

10月5日(土) 北海道全国大会総会、懇親会

11月24日(日) 金属部会CPD技術セミナー「歴史金属学2」

12月1日(日) R6問題検証会

12月8日(日) 定例部会・役員会(早めます)

3 部会四方山

▶KIPチャレンジは、世話役の都合でスタートを見送った。企画の入り方がコンテストのような風体をしていたため共感を得られなかったことと、今後の行事でさらに飛び込みが入ってきたためだ。▶来年の3月に東京である金属学会春季講演大会で、「技術士ってこんなに面白いんですよ」セッションを企画している。まだ、決定まで時間があるが、決まればあっというまに時間がきてしまう。これまで、我々の活動は、技術士会の身内だけだった。定例部会もセミナーも見学会も会員を対象とした行事だ。しかし、世の中には金属を生業(なりわい)にしている人たちも大勢いる。この人たちに技術士の魅力をもっと

発信すべきだと感じている。それにはYOUTUBEやテレビやラジオなどのメディアを使う戦略もあるだろう。しかし、必ずしも技術士の興味を持ってくれる人がアクセスするちょっと疑問が残る。大半の技術者や研究者は、XやFACEBOOKは見ないだろう（和鐵も見ない）若い人向けにはそれでいい。しかし、年配の人にはどうだろう……。新聞広告も考えてみた。しかし、新聞自体を見ている人が少なくなっている。千葉県の新聞に過去数回個人広告が載ったがアクセスは皆無であった。▶では、技術士に興味を持ってもらえそうな人はどこに居るのだろうか。それは、企業の中や大学の中、官公庁の中にいる。そんな人たちにアクセスをするのは不可能だ。では、どうすればいいのか。これが全国大会でのセッションを選んだ理由だ。いきなりでは無理だろう。しかし、金属学会なら今年すでに4回、技術士による紹介記事を掲載している。全国大会でセッションを作り、呼び込めばいいのではないだろうか。広告も打とう。新年号と講演大会号にドカンと打てばいい。そして、大会で大暴れしようではないか。こんな面白い人たちが金属をやっているんだと知ってもらえればいい。会場では技術士会、金属部会を染め抜いたハッピーを着て練り歩こう。ビラも作ろう。のぼりも立てたい。セッションも、できれば2日、同じことやろう。▶人の注意を引くには、普通のことをしていては誰も振り向かない。呆れるほど繰り返し、大きな声で、呼び込みをする。まあ、格式ある学会であるまじき品格なき行為と言われるならお叱りを受けてもいい。和鐵個人の責任だ。でも、技術士に興味を持ってもらい、面白そうだ、受験してみようと思わせなければ人は動かない。……。金属部会400人、金属学会4000人。同時開催の鉄鋼協会は8000人だ。この人たちを技術士会に引き摺り込まない手はない。これがKIPチャレンジ開催を見送った理由だ。皆さん、ご意見があれば和鐵に連絡ください。和鐵は本気で考えている。▶また、この余勢を借りて、来年の夏には「こども霞ヶ関」で文部科学省と経産省に金属部会のブースを出したい。おんなじやるなら東京の地の利を活かそう。また、草の根運動もいいが、攻めるなら本丸からでもいいよね。

5 和鐵管見36

▶不吉な予感がした。和鐵管見34号で、コーヒーの淹れ方のちょっとした自慢話を書いた。その途端、長年愛用してきた手回し式のコーヒーグラインダーが壊れた。世界中と一緒に旅してきたグラインダーだが、いくらハンドルを回しても空回りし出した。調べてみると、セラミックス製のグラインダーの中心が割れている。こんなこと初めてだ。不吉だ。▶和鐵の周りの道具は、何か新しいもの買い替えることを考え始めると不思議と壊れる。長年愛用のジョギング用の短パンも新しいものをAmazonで見始めた途端に、またさき状態で穴が空いた。ジョギングシューズしかり、黒いTシャツしかり、新しいものをネットで検索した途端大きな穴が開く。不吉だ。▶なんでAmazonでシャツや短パンを探し始めたのかわからない。ただ、よく考えてみると、そろそろ寿命が来る予感がして探しているような気がする。無意識の予知能力かもしれない。▶この体験は、過去もあった。不吉なことだが、ずっとあっていない恩師やおじさんに急に会いたくなって会いに行く。すると不思議に亡くなってしまわれたことが続いた。和鐵が悪いのか予知能力が働くのか、それとも偶然なのかわからない。▶ただ、ものにしても人にしても不死身はいない。必ず寿命がある。和鐵が予感して会いに行くのは、その寿命を縮めることなく、それ

を察知してもう一度交流をしようとしているのかもしれない。今回のグラインダー破損も、そういえば、Amazonで電動式のクラインダーを探したことがある。▶でも、和鐵の周辺では会社でも6月に入ると設備が日替わりメニューのように壊れ出した。せっかく買ったPCの両側にモニターがくっつく優れものもまだ片方しか触っていないのに液晶が割れていた。Amazonで買った液晶が壊れたのはこれで三度目だ。愛用のキーボードも、USBタイプCの真ん中のボードが壊れた。これまで、5台同じものを買っているが、その3台目は数日しか持たなかった。いくらケーブルを刺してもさ充電しなかったので気づいた。まあ、大体、新品は交換しているので、たいした被害はないが心理的には滅入る。▶いま、突然思い出したのだが、この現象が起こり出したのは大学1年の春からだ。せっかく大学生になったのだから、計算機を購入して計算に強い技術者になろうと思い立った。そこでカシオの計算機を買いに生協に行ったのだが、そこで、ヒューレットパッカートのプログラム電卓に出会った。昭和51年のことだ。やもたてもたまらず、いずれバイト代が入ってくることを想定して当時7万する電卓を買った。ニキシ管の数字が10個並んでいるやつだ。意気揚々と家に持って帰って、電線を差した途端、電卓が火を吹いた。一度も使わずおしゃかになった。翌日生協に持って行って文句を言った。生協の店員は、冷たく「プラスとマイナスを反対に差してますね。これじゃあバッテリーが壊れます」と言われた。そういえばケーブルがとても差しにくく無理やり差し込んだ記憶がある。▶それからの記憶が定かでない。果たして、交換してもらえたのか、再びお金を出して買ったのか……。でも、プログラム電卓を使った記憶はある。なんとかなったんだろう。これ以外に、買った初日に壊れたカシオのカメラなど壊れた道具は思い出せばキリがない。単に動作が雑なだけかもしれない。大半の人生を終えた今日この頃、ようやく自分の行為が悪いのかもしれないと思出した。よし、今日から生まれ変わって、初物を壊さないようにするぞ。今朝届いたばかりのM3のMACBOOK AIRでこの文章を出先で書いている。部屋に戻るまで、MBAを壊さないで持って帰れるか厳しい試練が待ち受けている。

金属部会長便り(2024年10月号)2024年10月3日発行(第39号) 田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第39号

1 直近の活動

9月1日(日) 幹事会

9月8日(日)金属部会CPD技術セミナー「最新技術3」

9月18日-19日金属学会(大阪) <<<ここで直談判

9月22日(日) 企業内技術士勉強会(第19回目)とBOR議論、技術者倫理講義

9月23日(月) 顧問会

9月29日(日) 定例部会・千葉県支部

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

10月以降行事

10月4日(金) 北海道全国大会・部会見学会「北海道科学大学」

10月5日(土) 北海道全国大会総会、懇親会

11月24日(日) 金属部会CPD技術セミナー「歴史金属学2」

12月1日(日) R6問題検証会

12月8日(日) 定例部会・役員会(早めます)

3 部会四方山

▶いつの間にか、2024年も残すところあと3ヶ月となってしまった。今年が始まったときにはまだまだだと思っていた北海道全国大会も明日からだ。▶部会活動は、プライベート活動時期が重なってしまう。これを書いているのは顧問会直前の東京新宿のシェアオフィスにて。今日はこれから顧問の皆さんとの意見交換会だ。昨日は、企業内技術士の19回目の勉強会。思えば長く続いている。そのほか、来週は、千葉県支部からの定例部会、前日に三人会と音楽会鑑賞と予定がどっちらり。9月はそのほか、8日の技術セミナーで無謀にも「システム技術」の講義をしてしまった。ちょうど、会社の工事立ち合いとかちあい、セミナー時間だけ現場を抜け出しての講義だった。DXなど浮世離れした講義を、リア充丸出しの60トン台車の10年ぶりの車輪交換を台車の下に潜り込んでしながらやるものだから、頭の中というより気持ちがごった煮状態。▶そうそう、先週の水木は、酷暑の中、大阪豊中で行われた秋季金属学会講演大会に参加していた。夜の懇親会が目当てだったが、さながら会社同窓会の感覚だった。北海道から九州までの大学やNIMSの金属系教室の教授連中が10人くらい和鐵の周りに寄ってきて、昔話で盛り上がった。和鐵が最年長近いので、ほとんどの教授連中に「和鐵さんに、『勉強してから出直してこい』と怒られた」と言われたが、和鐵がそんなに失礼なやつだと自分では全く自覚がなかった。嫌なやつだったんだろうな。▶そんな連中が学会で活躍しているのは「ちょっと頼りないなあ」と思う半分「あいつらも成長したな」との気分でいっぱいだ。来年の春の金属学会で『技術士紹

介』シンポジウムの話も、まあ審査する側がこの人たちなのですんなり通ってしまった。あとは、どれだけ常識の斜め上をいくかが課題だ。頼むよ金属部会の皆さん。お行儀よくするなんて真平ごめんだからな。▶三連休の前半の21日は、朝からTBSの世界遺産のナレーションの監修作業にどっぷり浸かっていた。和鐵の文章を鈴木亮平くんが読んでくれるようなので、まあ放映がみものだ。でも、10月10日ナレーションの収録らしく、直近きたメールでは来年になるようなことも書いてあった。たった30分の番組なのにこの作業は疲れる。もう一回やれと言われれば考えさせてもらう。22日は社長に頼まれた熱処理講義用の動画作成、23日中に絶対送り返してくださいと頼まれている秀和システムの最終グラフ校正をやっている。本当は映画を2本見に行きたいんだが10月1日の印刷開始までの我慢だ。でも、そのあと、12月に出す予定の小説のイラスト書きが待っている。10月、11月も土日を中心に6件の工事が入っており、和鐵発案の新型炉も設計が大詰めを迎える。12月後半に2週間土日振替休暇をとって、技術士会もテレビも出版社も、会社も連絡を絶って、海外で小説の次に出すの本の原稿書きをするのが今のところ当面の目標になっている。▶忙しいとかいう感覚はない。忙しいとは忙しくない状態の楽しみ方を知っている人の感覚だろうが、時間が全部うまり、次から次へとイベントが続く状態が楽しいものだから、きっとやることがないと途方にくれると思う。

5 和鐵管見37

▶秋になると映画館の映画が楽しくなる。最近では、東京で見るケースがめっきり減って、もっぱら海老名のイオンシネマに入り浸っている。『もしも徳川家康が総理大臣になったら』は、歴史上の偉人オールスターズがコロナで疲弊した現代日本に一年限定でAIで大復活!。コメディとも取れするし、ビジネス映画とも取れる。なかなかの怪作。嫌いじゃない。▶『エイリアン：ロムルス』もなかなか面白かった。これはエイリアン好きの和鐵としては見逃せない一作。みてよかった。ていうか、エイリアンの第一作目の世界観を引き継いでいる。2、3、4でなんか会社批判の映画になり、人類の誕生物語みたいな派生映画や宇宙人と戦うシリーズまでできたが、今回の映画は、完全に原作の世界観を引き継いでいる。和鐵が初めてエイリアンを見たのは大学3年生のとき、京都八坂神社斜め前にある祇園会館でだった。ここでは準封切外国映画を2本立てで格安料金で見れた。この日はオールナイトでエイリアンだけだったので、4回連続で見たのが最初だ。▶京都の学生の映画館需要はそれほど頻度が高くない。デートコースの映画館とは異なり、学生需要を満たす映画館の最高級が祇園会館、中くらいが京都市左京区の一乗寺に「京一会館」という名画座があった。京都の一乗寺にあったので、京一というわけだ。東映の任侠映画、日活ロマンポルノ、無国籍アクションものを好んでみた。柔道部の練習の合間にチャリで通った。バイトのない土曜の夜はこれまたオールナイトで4本、6本立てが激安料金で見れた。もうあんな雰囲気映画館は数えるほどしかない。東京なら早稲田大学の近くの高田馬場にある名画座の早稲田松竹くらいしか思い当たらない。コロナ前には、和鐵は何を勘違いしたのか一念発起して、早稲田大学の土曜フランス語講座に入学し、授業に行った帰りによくここで2本立てでみた。フランスなどの洋物映画が見れたので一時期は毎週のように通った。金曜日の夜に本社で遅くまで仕事をして、君津に帰り損ねたことにして代々木の

寮に泊まり、翌日午前中にフランス語講座に出るというわけだ。生徒は20人くらいの社会人とかほとんどがとてもお年を召したマダムで、教室に入ると「ボンジュール、マダム」「ジェベアパリ、ペダン コンビアーン ドゥ テンプ」などの会話が飛び交う。和鐵は、ここでフランス語を話せるようになって、65歳で会社を卒業したらパリのソルボンヌ大学の絵画歴史コースに1年間自費留学するつもりだった。1年間ここで学べば、卒業式にマントと帽子を着られる。それを夢見てせっせと学校に通っていた。なぜ、65歳でフランス留学かというのと、和鐵の奥さんのシロ子さんのお母さんが丁度65歳で立命館大学の経済学部を受験し、4年間滋賀県草津にあるキャンパスで女子大生をやっていたのでそれに憧れたのだ。今更日本の大学を受験しても面白くないので、和鐵が好きなフランスでインスタント大学生になろうとしたのだ。残念ながらその夢は、憎きコロナで渡航できず、同時に金属部会長になってしまったため潰えた。もう計画から三年過ぎてしまった。日本でガンジからめになっており、次のチェックポイントは70歳で、日本のしがらみを断ち切り、パリ生活をやりたいものだ。オペラの『ラ・ポエーム』やヘミングウェイの『移動祝祭日』に出てくる天井裏の寒い部屋に運びあげた薪で暖をとりながらフランス絵画の歴史を勉強する、まだ果たせていない夢だ。一時期はしゃべれたフランス語もだんだん聞き取れなくなってきた。▶京都の映画館の話に戻すと、さらにお世話になったのが伏見にあった伏見会館、伏見東劇だ。就職直前の修士2回生の時、運転免許を伏見自動車学校で集中してとった。授業や実技が複数ある時の時間調整にここで大倉映画を山ほど見た。▶映画といえば、2013年ごろ、松岡正剛の編集工学研究所の勉強コース、守、破をオンラインメールで受講していたとき、指導してくれた師範代の女性が、『灼熱の魂』の話をもっと興奮して話していた。ご自分は興奮しているのだが、そのストーリーは教えてくれないのでネットで探すと、テアトル大阪でその週末までかかっていた。気になって仕方なかったので、わざわざ君津から大阪まで新幹線で観に行った。師範代が興奮するような映画かどうかわからないが、見終わった後しんどい映画だった。多分女性の方がしんどさが違うような気がする。師範代に感想を言ったが会話が弾まなかったことだけは覚えている。確か2010年のカナダ映画だった。いちいち評判を調べる趣味はないが、あの幅の狭い映画館で見た『灼熱の魂』はあるある話であった。▶映画館つながりで、和鐵的に最高傑作と思っているのが、東京の阿佐ヶ谷駅から少し歩いたところにあるユジク阿佐ヶ谷で観た「セシウムと少女」だ。阿佐ヶ谷にはジブリの学校もあり、ここも協力してできた映画だ。阿佐ヶ谷に住む少女ミミちゃんと、太古よりこの国に居る7人のくたびれた神様たちが「逃げたおばあちゃんの九官鳥」を捜して時間や空間を無視して東京中を駆け巡るひと夏の冒険ファンタジーとでも言うておく。中学生レベルの映画好きが実験映画的にいろんな自分の映像を持ち寄ってつなげて「これでも映画です」と夏休みの終わりの宿題として出したような映画だ。でも内容が深い。なんでセシウムが出てくるのか。なんで、文豪喫茶が出てこなければならないのか、意味がわからないほど映像がごった煮になった映画だ。▶その点、コロナ直前の秋に東京のヒューマントラストシネマ有楽町で観た『ディリリとパリの時間旅行』は申し分なく、太鼓判を5個くらい押しでもいいフランスアニメ映画だ。フランスの19世紀後半の美しき時代<ベル・エポック>のパリを舞台にしたニューカレドニアからきた少女ディリリの物語だ。映像がべらぼうに美しい。ジブリの背

景の綺麗さや『君の名は』の写実的な背景とは違う、これぞ背景といううっとりと思惚れる色彩豊かなパリの光景が描かれている。その中で、陽気な少女ディリリがいるんな人と出会い、成長し、最後はエッフェル塔の近くの空中で悪の組織に立ち向かい平和を取り戻す、書いていると支離滅裂なストーリーだがこれが本当に面白い。これはAmazonではまだ有料なので2回目を見るのを我慢している。でも「セシウムと少女」は自由にAmazonで見られるので騙されたつもりで（ていうか本当に騙されたと思いうと思えますよ）見てみられればいかと。ご覧になられた方は是非感想を和鐵まで送ってください。なんなら映画パンフレットも見せてあげますよ。映画上映中には出来上がっておらず、お金だけ払ってなしの礫で、約一年くらい経ってから届いた逸品だ。▶映画の話になると無限に思い出が湧き出てくるのでここいらで止めておきます。

1 直近の活動

10月4日(金) 北海道全国大会・部会見学会「北海道科学大学」

10月5日(土) 北海道全国大会総会、懇親会

10月13日(日) 幹事会

10月19日(土) (個人的話ですみません)「金属がよくわかる事典(第三版)」の発売日でした。でもこの日はプライベートでした。詳しくはPE11月号の著書紹介に載ります。

10月20日(日) 金属学会春季講演大会シンポジウムキックオフ(1回目)&2025年2026年執筆者説明会

10月20日(日) 企業内技術士勉強会(第20回目)とBOR議論、技術者倫理講義

10月27日(日) 定例部会・機械振興会館

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

11月3日(日) 幹事会1430～

11月10日(日) 企業内技術士勉強会(第21回目)とBOR議論、技術者倫理講義

11月16日(土) 1300中部本部定例部会

11月17日(日) 1430金属学会春季講演大会シンポジウム打ち合わせ(2回目)

11月24日(日) 1300セミナー13「歴史金属学2」

11月25日(月) 部会長会議

3 部会四方山

▶忙しいとは、心が亡くなることと言われたことがある。これは間違いだ。忙しさは、心の墓場ではなく心のオアシスだ。大体、忙しい時には、余計なことを考える暇もなく、次々襲いかかってくるモンスターをやっつけ続けるだけだ。暇な時ほど自分探しを始めて、方向性を見失う。もちろん、忙しさに押しつぶされては話にならない。どれも破綻しないギリギリの線を見極めて、破綻寸前で目の前の課題をこなしていく。一つ一つの出来栄えなんか気にしない。相手が不満に思わなければいいだけだ。経験的には、破綻するのは、自分を出した時だ。自分にこだわると途端に物事はストップする。忙しい時には自分を消して、ひたすらモンスターをやっつけることに専念する。バトルの最中によそ見をしたり話しかけられて中断すると碌なことが起こらない。▶しかし、ピークは必ずやってくる。それも1つ2つのピークならいいのだが、10個くらいのピークが一時期にやってくる経験を10月の最初にした。会社の設備予算と消防署へ飛んでいく事案と労基署へ平謝りしながら書類を提出するのとISO監査とややこしい技術検討が群れをなしてやってきた日、設備がぶっ壊れたので見て欲しいと現場が呼びにきた。そのあとは天井の雨漏りをなんとかして欲しいと現場が押しかけてきた。10月発売の事典の第三版の最終編集と校正が一度にやってきた。さらに社長の代筆で講演資料を作り、動画を探して欲しいだの時間を詰めて欲しいだの色々指示がきた。そしてその日がTBSの番組監修の原稿締め切り日だった。

それに春のシンポジウムの企画書をこの日までに書かなければならなかった。もうあと数日で北海道という時期だった。さすがの和鐵も手帳にその日のやることリストが3ページにまたがってびっしり書き込まれたのは経験なかった。▶北海道は素晴らしかった。なんとかモンスターをやっつけ、10月3日の夜行便で新千歳に着いた。羽田空港のANAラウンジで仕事をするのは、コロナ以来だったが、大好物の牛乳とトマトジュースとおつまみで数年間のブランクは解消した。コロナ前は、それこそANAラウンジは年間数十回利用していた。全国の製鉄所に最も安く早く出張するのにANAは欠かせなかった。その時の名残りで、ANAのラウンジは今でもビジネスクラスで出入りできる。帰りに利用した新千歳のANAラウンジはコロナ前はまだ改装中だったので、おしゃれになったラウンジにちょっと感動した。また戻ってきた感だ。▶これから北海道には何度も行かなければならない予感がする。北大で学生に鉄の魅力について語って欲しいとの要請と、来年の金属学会春季講演大会に技術士セッションでシンポジウムをさせてもらうお礼に「当然、秋の北海道の講演大会にはきてもらえるんでしょね」とのプレッシャーで、新千歳を利用することになる。▶10月4日の北海道科学大学での講演会と大学の見学会は、見ごたえ聞き応えのあるものだった。札幌近くの広大な敷地に広がるキャンパスに溢れかえる学生もすごかった。ここで2011年来の我が愛車リーフと一緒に展示してあるT型フォード、なんとまだ走れるものを見れたのも収穫だ。今売り出してくれるなら、躊躇なくリーフでなく素晴らしいフォルクスのフォードを選ぶ。クラシックは不滅だ。▶全国大会は、まあいつもと同じ感覚。前日の見学会が北海道科学大学になったので、少し余裕ができた。小樽まで足を伸ばせなかったが札幌場外市場で魚三昧の大散財をしてしまった。夜はサッポロビール園でウェルカムパーティだった。ジギスカン爆食いも久しぶり。腹一杯食べていると多幸感に包まれ、つい数日前までのゴタゴタをしばし忘れる。酔っ払ってのすすきののホテル（というより外国人がいっぱい泊まっているカプセルホテルに近いもの）に戻るまでの間、電車駅前の百貨店の赤ちゃんのパンパースの棚の前で警備員に起こされるまでどこをどのように歩いたのか記憶がない。（なぜそこで寝ていたのかのも不明だ）でも帰巢本能だけは酔っていてもどこでも働らしく、次に気がいたらホテルで寝ていた。▶翌日は、ちゃんとしなくてはと正装で出かけたが午前午後通して座っているだけなのでずっと爆睡していた。でも大丈夫、夕刻には体力が復活し、懇親会は大はしゃぎできた。山東昭子さんとのスナップショットもいい思い出だ。北海道でラーメンを食べるものではないと職場の同僚から言われていたが、懇親会のみそラーメンは絶品だった。▶すすきのから新千歳までの高速バスで隣に座った90歳のオヤジがすごかった。見ず知らずの和鐵に自分の人生をずっと語り続け、前の席のにいちゃんが「あのお、うるさいんですけど」と言うまで物語を続けていた。これからタイに戻るらしい。70の時に奥さんと死別し、子供もいなかった。タイに住みつき、そこで現地の人と結婚し、その2番めの奥さんとの間にうまれた娘さんが現在、北海道の大学に行っている。会いにきたという。なんだかヴァイタリティあふれるご老人だった。どこかの製薬会社の研究員をしていたといていたので、きっと不老不死のくすりでも発明して飲んでいるんだろう。新千歳空港でもグランドパーサーのおねえさんに大声で話しかけながら、タイにもどる便のことをきいていたのであながち妄想でもなかったんだと感心した。上には上がいる。まだまだ和鐵など足元にも及ばない人がごろごろ日本中にいるのだろう。こうおもうとちょっと元気がでてきた。

5 和鐵管見38

▶ピークが過ぎると気が抜ける。和鐵の年間ルーティンはピークが次々押し寄せるので、その度に気が抜けている。つまり年間を通していつも気が抜けていることになる。▶抜けている時は、机に向かう気力がなくなり、自室に帰れば寝転び、出かけると図書館から読めやしない分量の本を借りてき、映画館のハシゴをし、Amazonプライムを見続ける。ということは、いつも遊んでいる状態になる。たまにフィットネスに行くが、たまのため、ウエイトトレーニングが度を越してしまう。翌日はなんともないのだが、2日目、3日目で腕が上がらず、足やお尻の筋肉がパンパンに腫れ上がってくる。4日目が最高潮の筋肉痛になる。▶最近、あと何冊、本が読めるのか、あと何本映画を観れるのか不安になる時がある。海老名図書館の地下に夜に行くとかなりの人数の高齢者が本を読み耽っている。和鐵もあんな風にゆっくり本が読める日が来るのか。くる前にくたばってしまいそうな予感がする。和鐵の本のジャンルはぐちゃぐちゃだ。先月、生まれて初めて村上春樹の「ノルウェーの森」を読んだ。これは学生時代に読むべき本だった。でも時代が丁度和鐵の大学時代に被っているので、少し遅れて読むことになったのかもしれない。これだけどうでもいいことをグタグタ書ける村上春樹に感心した。まあ、個人的には村上龍のちょっとアブない小説の方が好みだが。こっちは昔、無茶苦茶乱読した。超電導やらコインロッカーやら今でも怪しい雰囲気の小説が良かった。次に井上靖の「敦煌」を大文字版で読んだ。映画ではみたが、本でちゃんと読んでないことに気づいたので読んでみた。映画で戦いの前に「碑（いしぶみ）の裏に部下の名前を一人ひとり掘る」と隊長が演説するシーンがあった。あのシーンは忘れられず、2008年くらいに会社で「品質機動班」という大人数の三交代組織を作ったとき、最初にやったのがそのシーンの再現だった。大きな木板を買って来させて、表に品質機動班と揮毫し、裏に新規に集めた機動班25名全員の名前を筆で書かせた。「お前たちの名前はこの看板の裏に永遠に残るのだ・・・」小説を読んでいるとそのシーンで昔の記憶が蘇った。▶この文章を書いている最中に和鐵の原理が発動した。「懐かしくて会いに行った人が死んでしまう」定理だ。なんと、映画の主人公のひとりの登場人物である西田敏行が突然亡くなってしまった速報が流れた。久しぶりに『敦煌』の映画を見たくて引っ張り出して真夜中に見たちょうど次の日だった。▶その次に読んだのは、レイモンド・チャンドラーの「大いなる眠り」だ。ハードボイルド小説が突然読みたくなってまずは古典として借りてきて読んだ。ハードボイルドは和鐵が好むジャンルだが、自分がそうでないのでちょっとモヤモヤ感が強い。いつか「君の瞳に乾杯」と言って彼女（妄想ですが）に杯をあげ、その彼女（妄想ですが）がまとわりついてきて「昨日はどこに・・・？」「そんな昔のことは覚えていない」「今夜、会える？」「そんな先のこととは分からない」と言ってみたいと思う（わかるかなあ、わからないだろうなあ。映画「カサブランカ」のボガードのセリフです。でも、数年前、まだコロナの前に、クルーズ船ノルウェージャン・ジュエルに乗った時、夜のバーでピアニストが弾き語りをしていました。「カサブランカ！」とリクエストしたら「時の流れるままに」を歌い出して、痺れた経験がある。▶本の話はそろそろ切り上げよう。あとは、清水義範の本を3冊ほど。清水義範の「国語入試問題必勝法」は和鐵の大学入試の時のバイブルだった。絶対でまかせな

んだろうが、影響を受けたには間違いない。数十年ぶりに再会し、こちらはこれからハマる可能性がある。この文章が和鐵の理想形だ。▶先月19日が誕生日だった。色々用事があり自宅に帰らなかったが、なんと68歳になって初めて女子プロを見に行った。この歳になると女子プロというとゴルフと思うかもしれないが、さにあらず。女子プロレスだ。ベルサール新宿グランドでスターダムニューブラッド16に出かけた。会場で大勢と見るのは、2012年に宮崎奈穂子が武道館単独ライブをやった時、「Birthday Eve」をライトを振りながら歌った時以来だ。路上シンガーの宮崎奈穂子の快挙を応援しに行ったのだった。▶女子プロになぜ行ったのか？それは水森由菜（ゆうな）の試合が目的だった。10月の最初の気が抜けた時期にアマゾンプライムで見た「半澤直美」の主人公だ。この映画で、和鐵は水森由菜のファンになってしまった。まだ、女子プロレスに転向する前のアイドル時代にみた映画だ。映画は、例によってみない方がいいかと思うが（一応コメディなんだが、なんか全体的に中途半端で、歌だけが気合いが入っている超格安の三流映画だ）この明るくめげない姿勢にファンになった。もうアイドル活動はやっていないので、しかたないのでプロレスを見に行った。生まれて初めてピアでチケットを買い、セブンイレブンで入場券を印刷してもらい会場に向かった。19日は自宅に帰るつもりだったがその日はシロ子さんが終日学童保育でどこかに出かけているので時間が空いた。最初は春のシンポジウムの説明会を19日に入れようとしていたが、執行役連中のアドバイスで、翌日にまわし、その日は女子プロレスを見に行くことにした・・・続きはまた今度。

金属部会長便り(2024年12月号)2024年12月1日発行(第41号)

田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

1 直近の活動

11月3日(日) 幹事会1300～

11月10日(日) 企業内技術士勉強会(第21回目)とBOR議論、技術者倫理講義

11月16日(土) 1300中部本部定例部会

11月24日(日) 1300セミナー13「歴史金属学2」

11月25日(月) 部会長会議

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

12月1日(日) 執行役談話1300～

12月1日(日) 幹事会1430～

12月8日(日) 定例部会・役員会

12月22日(日) 企業内技術士勉強会(第22回目)とBOR議論、

3 部会四方山

▶山谷ブルースではないけれど、🎵11月の仕事はきつかった、あとは議事録書くだけ。どうせ部会のドヤずまい、他にやること溢れてる。🎵一人夜中にうつメールに、帰らぬ昔が懐かしい、泣いて泣いてみたって何になる、今じゃ部会がふるさとよ🎵仕事終わればそれっきり、お払い箱の俺たちさ、いいさ、いいさ部会のメール地獄、世間恨んで何になる▶11月はきつかった。寸暇を惜しんで土日の工事、土日の行事、土日の遊び。ウイークデーに襲いかかる部会打ち合わせや技術士会行事……。これにフルタイムの本職の仕事が入っている。イベントが終わるたびに仕事仲間や部会仲間を飲み連れて行かねばならない。今月だけでも5回あった……。▶でも、名古屋のメンバに会えて嬉しかった。大学の学科同窓会は同期が一年で何人もくたばってしまい悲しかった。出版社からは「頼むから執筆に専念しろ」と脅されるのも心地よい。ひょっとしたら、自分に性格はいじめられて踏みつけられて快感を感じるようになってしまったのかもしれない。誰からもいじめれないと禁断症状で死んでしまうのかも。まあそれもよしかな。▶この文章は、会社から帰り、夜食を作り、そのまま寝てしまい、夜中の0時前に目が覚め、PCかばんをひっ捕まえて夜中の街を彷徨い、シェアオフィスに到着、周囲にまだ居残っている海老名の意識高い系のにいちゃん姉ちゃんに混じって打っている。▶2024年もあつという間に12月になった。短かったかといえば嘘になる。しんどくなかったかといえば嘘になる。やる気ができたかといえば……。やる気が出るとか出ないとかいう以前に、操り人形のように毎日、体が動いている。1月9日にクアラルンプールから帰国し、東京に一泊して10日の会社に出るとそのまま海老名住みついた。千葉には数回しか帰れない。以降、拉致監禁状態が続いている。まあ順応性が高いのか、初日から体が自動フィッティングモードになり、は

や一年が過ぎようとしている。会社に誰もいない土日出勤工事監督がとんでもなく多く、30日を超えた。GW？全部出勤、お盆休み？1日だけ休んだ。あとはウイークデーの技術士行事や、セミナー講師や、セミナー動画取り（なんと大阪で4日間で6時間番組を7本収録した）なんかで消化した。残りの土日振替は12月の中旬から2週間の海外逃避にあて、そこで来年3月に出版する本の原稿を完成させる予定だ。▶来年も正月早々から5月くらいまで部会行事は目白押しだ。後半の行事も次々候補が持ち込まれてきている。部会の皆さんも、「体に気をつけて、年相応にそこそこ頑張りながらお過ごしください」月一の部会長便りも41回目になると、何だか体に一部になってしまった感がある。ではこの辺で、執筆モードに移るのでお開きにしたい。フェードアウト。

5 和鐵管見39

▶海老名の部屋の近くに、プライベートの仕事用オフィスを借りた。無茶苦茶快適だ。歩いて10mくらいのところだ。初日から夜中、早朝、夕方を問わず少しでも時間ができればそこに行って仕事ができる。これまでは、日経のオフィスパスというシェアリングオフィスを借りていた。ところが使える場所が偏り、日常使いには向かなくなっていた。まだ、自営をしている時にはまあ使えた。しかし、ウイークデーが会社に行っていると移動だけで苦痛になった。3年間頑張ったが契約をやめた。代わりにBIZコンフォートというシェアオフィスを全国で24時間365日無制限に使える契約に切り替えた。オフィスパスとフィットネスを辞めると持ち出しなしで使える。まあ固定にすることもないので、全国どこでも使える契約にして、技術士会に出かける時には夕留や新宿を使えば良い。まあ少し遠いが運動と思えばいい。▶コロナ前までは前の会社から数駅離れた浜松町のプレミアムオフィスを借りていた。夕方会社を出ると、そこで夜中まで執筆や技術士活動をし、そのあと自宅までの直通高速バスで帰っていた。24時間使えるので徹夜することもあった。ここで、「事典」を執筆した。コロナで東京に行けずに解約したのが残念だった。▶和鐵は怠け者だ。下手すると布団で1日中でも転がっていられる。海老名には自宅と同じく大画面モニター2面の執筆環境を整えているが、後ろに布団があるのは最悪のシチュエーションだ。しかも、昼間は電車の音、夜は酔っ払いの濁声（女性が多い）やゲロゲロいう音が響く。窓を開けていると落ち着いて会議もできない。その点、周囲に人がいる静かな環境はありがたい。目の前に置いたアナログ時計で時間を測りながら、一度に4~5件の仕事を片付けていく。いわゆるタイムシェアリングだ。部屋のように冷蔵庫もないので、アイスクリームの誘惑に抗う必要もない。いいことづくめだ。世の中の人、こんな素敵な環境に気づいていないのか。使っていないなら人生結構損をしていると思う。確定申告にこのオフィス代は経費で計上している。個室部屋も契約できるが、本末転倒なので興味ない。部屋に籠るなら勝手に籠ればいい。周囲に人がいるからはかどる。これは、技術士にお勧めだ。シェアオフィスを住所登録したり、大きなロッカーを借りても一ヶ月で晩飯一食分くらいだ。勤め人にお勧めだ。個人事業主にもお勧めだ。学生にも、技術士にも、受験生にもお勧めだ。オフィスパスの広告に何度も登場している和鐵がいうのだから間違いはない。人生変わりますよ。

金属部会長便り(2025年1月号)2025年1月5日発行(第42号)

田中和明個人の意見・感想で部会の総意ではありません。

部会長便り第42号

1 直近の活動

12月1日(日) 執行役談話1300～

12月1日(日) 幹事会1430～

12月8日(日) 定例部会・役員会

12月22日(日) 企業内技術士勉強会(第22回目)とBOR議論、

12月27日(木) 四部会連絡会

<<<来年も続ける。奇数月の最終木曜日の19時半

2 今後の活動予定(直近1ヶ月分)

1月5日(日) 幹事会1430～

1月19日(日) 企業内技術士勉強会(第23回目)とBOR議論、

1月26日(日) 吉武記念講演会(第4回) 機械振興会館

3 部会四方山

▶2024年を部会活動を総括すると、「皆さん、とても忙しかったかもしれませんね」です。実際、参加者は、幹事会や顧問会を入れると1600名を超えてきました。ひとえに、皆さんのご協力の賜物です。▶何がありがたいかと言えば、幹事団が自主的に企画をこなし、部会の皆さんがそれに参加していただけるこのサイクルです。企画者が忙しがったり、参加者が億劫になるような会合は、多分淘汰されてしまうのでしょうか。▶ただ、部会長便り特別編(吉武記念講演会の席上で配る「テクノメタリカ(金属部会年報)」の巻頭言)で書きましたが、こんなもので満足しては物事は何も変わりません。年末にある人からメールをいただきました。京大の新宮先生のお言葉で、「感動は進歩、満足は退歩」とありなるほどと思った次第です。新宮先生は異色の多い京大の先生の中でも特に異色の先生で、4階建ての幸福論の本があります。これ、結構面白いんです。飛行機で読んでみると、前に座ったスチュワーデスさんがその本を見て、「何だかしめんどくさそうな」と言いかけて「とても素晴らしい表題ですね」と言い直したのを今でも覚えています。▶「満足は退歩」です。現状に満足したり、忙しい一年を振り返って「俺たちもなかなかのもんだ」なんて考えた瞬間、転落が待っているのです。前に、前に、一步一步進み続けている限り、金属部会の活動は安泰です。▶来年も、年初からいろんなイベントがあります。中でも、皆さんの協力で成功させたいのは、2月に行く、これから技術士を受ける可能性のある人を対象にしたイベントへ、皆さんのお子様たち、周囲に人たち、職場の人達を「必ず3名」は引っ張って欲しいのです。受けるとは言いません。人集めに協力願います。まだ未成年でもOKですよ。▶あまり頭にこれまで申しませんでした。和鐵は、「一貫最適教」の信者です。これは和鐵が勝手に作った宗教ですが、一貫最適を貫く限り、物事はうまく行くという教義です。一貫最適とは、理想を議論したり追い求めるのと正反対です。協議

は、その時点で、およそ考えられるできる限りの事を、できる限りの全ての時間を使って、できる限りの力で走り続ける事です。投資対効果とか、活動の意味はとか、それは誰それがやるべきことだなどとは一切考えません。そのような事をいくら議論しても、全てをMAXで走れば、最適になります。最適を尽くさないのは、怠け者の戯言です。とまあ、一般人には受け付けてもらえない考え方です。▶なぜこんな考え方になったのかと言えば、半分職業病です。品質というわけのわからない事を仕事にしてきたため、良くても褒められず、悪くなると貶される。誰も認めないが、ピンチになると頼ってくる。こういう仕事に数十年携わると、実務一辺倒の考え方になります。設備が良かった時を懐かしんだり、操業が安定しない事を悔やんだりしても何も変わりません。自分を擦り減らすしかありません。世の中が悪いと百万回言い続けても世の中は変わりません。変えられるのは自分だけしかない。でも、自分ってそんなに能力があるとは思えないし、何よりもサボリです。この状態に折り合いをつけるには、最適教を自分で起こすしか無かったのです。

5 和鐵管見39

▶物事、最後には何事もうまくいくもんです。これまでの様々な個人トラブルを経験し、ピンチに陥ってきた和鐵にはそれがわかっています。年末の、ハワイ島からオアフ島にトランジットしようとした時に、kona空港の入り口でアップルウォッチがなくなりました。探すの機能を使うと、300m離れたところにありました。しかしセキュリティの外なので探しに行けません。しばらくすると動いて近くにきました。キョロキョロ探しているうちに、再び外の道路上にあります。▶セキュリティ付近で和鐵が怪しい動きを繰り返すため、制服のエアポートポリスがやってきました。それは大変だ、ということで付近にいた（暇そうな）警備員が5人集まって大捜索が始まりました。20分くらいして、一人が「ノー」という両手を挙げる仕草で合図し、散っていきました。しかし、グルグリメガネの女性警備員が和鐵を引き留め、iphoneを取り上げ何か操作して和鐵に返しました。そうすると女性警備員のパソコンのソフトが起動し始め、画面に詳細な画面が映し出されました。アップルの機能は近くにあるアップル製品を捕まえて位置特定をします。なんかアップルウォッチのIPアドレスを警察のPCと繋げたようで、詳細に位置特定が可能になりました。何だか犯罪捜査している雰囲気です。やおら荷物検査装置のところに行き、検査を止めさせ、係員を機械の下に潜り込ませました。やがて歓声が上がり、一人の警備員がアップルウォッチを高々と上げました。検査の時、外して荷物の上に置いたものが振動でロールの隙間から下に落ちたようです。女性警備員がセキュリティを通したあと、和鐵に返してくれました。後ろに立っている警官が両手の親指をたて「グッド・ラック、メリークリスマス」と言ったのはまるで映画のシーンのようで、ブルース・ウィルスか映画「セキュリティ・チェック」の主人公のイーサンになった気分でした。アップルウォッチをなくして戻ってきたのはこれで二回目です。何事も最後はうまくいくという法則は、まだ継続中です。